

コメント

1. 流行性角結膜炎

定点当りの報告数は3週続けて増加し、3.38人となっています。過去2年間で最も多く、全国(第30週定点当り1.62人)よりも多くなっています。特に安佐南区、西区、佐伯区で多くなっています。

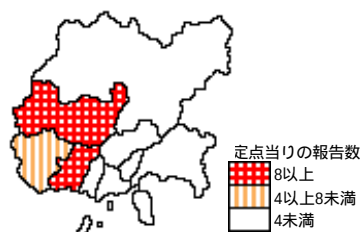
2. ヘルパンギーナ

第27週をピークに4週続けて減少していますが、全ての区から報告されています。特に安芸区では定点当り10.50人と依然として高く、続いて東区4.33人、西区3.67人となっています。

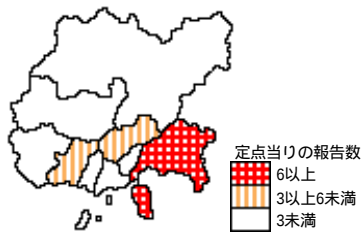
3. 手足口病

定点当りの報告数は1.79人とほぼ横ばいで推移しています。安芸区6.00人、東区4.33人となっています。

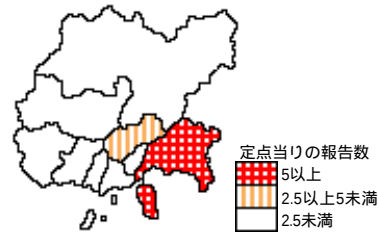
流行性角結膜炎



ヘルパンギーナ



手足口病



4 類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾病名	報告数	定点当り	前年同期	発生記号	疾病名	報告数	定点当り	前年同期	発生記号
インフルエンザ	-	-	-		麻疹(注1)	1	0.04	0.04	
咽頭結膜熱	3	0.13	0.46		流行性耳下腺炎	24	1.00	0.46	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.54	0.67	→	急性出血性結膜炎	-	-	-	
感染性胃腸炎	30	1.25	1.88	↘	流行性角結膜炎	27	3.38	1.25	↗
水痘	24	1.00	0.63	→	急性脳炎(注2)	-	-	-	
手足口病	43	1.79	3.96	→	細菌性髄膜炎	-	-	0.14	
伝染性紅斑	18	0.75	0.13	→	無菌性髄膜炎	1	0.14	-	
突発性発疹	22	0.92	0.71		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	-	
百日咳	-	-	0.04		クラミジア肺炎(注3)	-	-	-	
風疹	-	-	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	72	3.00	2.00	↘					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1～1.15の増減
横ばい	→		殆ど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

(注1) 成人麻疹を除く
(注2) 日本脳炎を除く
(注3) オウム病を除く

1 類～4 類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾病名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	16	南区・女性・7歳

4 類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

		インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶血性 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (注1)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (注2)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻疹
報告数	広島市	第29週	-	2	7	49	22	51	22	21	-	-	202	1	15	2	17	-	-	9	1	-
		第30週	-	7	12	38	21	49	17	24	-	-	120	3	18	1	22	-	-	7	2	-
		第31週	-	3	13	30	24	43	18	22	-	-	72	1	24	-	27	-	-	1	3	-
定点	広島市	第29週	-	0.08	0.29	2.04	0.92	2.13	0.92	0.88	-	-	8.42	0.04	0.63	0.25	2.13	-	-	1.29	0.14	0.14
		第30週	-	0.29	0.50	1.58	0.88	2.04	0.71	1.00	-	-	5.00	0.13	0.75	0.13	2.75	-	-	1.00	0.29	0.43
		第31週	-	0.13	0.54	1.25	1.00	1.79	0.75	0.92	-	-	3.00	0.04	1.00	-	3.38	-	-	0.14	0.14	-
当り	広島県	第29週	-	0.44	0.55	2.31	0.77	1.72	0.59	0.79	-	0.01	7.31	0.35	0.87	0.15	1.65	-	-	0.43	0.14	0.05
		第30週	-	0.76	0.43	2.15	0.59	1.51	0.45	0.87	-	0.04	4.99	0.25	0.87	0.05	2.15	-	-	0.33	0.14	0.14
	全国	第29週	0.03	0.50	0.58	2.07	1.24	2.88	0.51	0.87	0.01	0.02	6.06	0.23	1.95	0.04	1.53	0.01	0.01	0.10	0.16	0.01
		第30週	0.03	0.56	0.49	2.02	1.03	2.37	0.42	0.90	0.01	0.02	4.84	0.24	2.11	0.05	1.62	-	0.01	0.09	0.13	0.01

(注1)成人麻疹を除く (注2)日本脳炎を除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

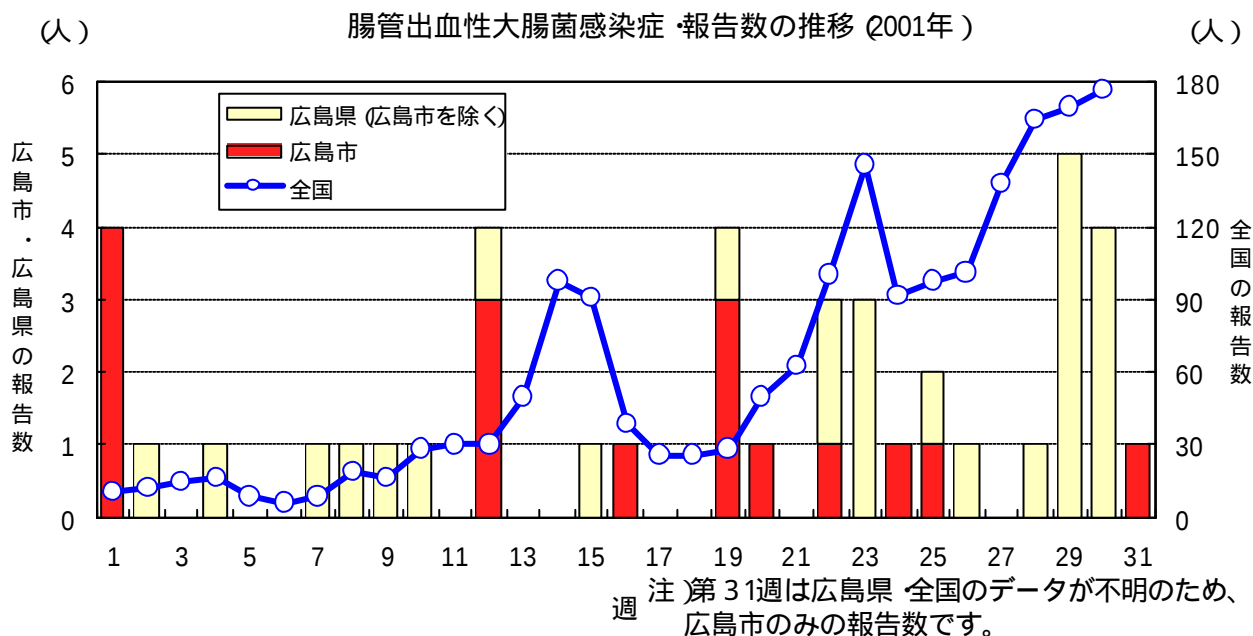
診断名	患者 年齢	性別	住所	発症 年月日	検査材料	検出病原体
急性咽頭炎	2	女	中区	2001/06/25	咽頭拭い液	エコーウイルス11型
不詳(発熱)	2	男	東区	2001/06/26	咽頭拭い液・髄液	エコーウイルス11型

(参考)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌はベロ毒素を産生し、腹痛と下痢を引き起こし中には血便を生じることもあります。ときに溶血性尿毒症症候群や脳炎を引き起こし、死に至ることもあります。

本年の全国の累積報告数は第30週現在1,858人で、これから夏場に増加します。広島市の累積報告数は第31週現在16人(うち子供は11人)で、血清型はO157型が15株、O26型が1株、毒素型はVT1+VT2型が14株、VT2型が2株でした。



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2001年第31週(7月30日~8月5日)